

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 法政大学大学院公共政策研究科 禹宗杵研究室
URL : <http://jasps.org> TEL : 03-6457-5953 E-mail : jongwon.woo.56@hosei.ac.jp
◇編集・発行 禹宗杵 (代表幹事) 首藤若菜・禿あや美 (Newsletter 担当幹事) 熊沢透 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2丁目 39-2 大住ビル 401
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 第 148 回 (2024 年度春季) 大会
自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集
2. 第 147 回大会臨時総会報告
3. 選挙管理委員会報告
4. 第 147 回 (2023 年度秋季) 大会
若手研究者優秀賞選考報告
5. 第 146 回大会 (2023 年度春季) 大会報告と
会計報告
6. 社会政策学会賞候補作の推薦のお願い
7. 2022-2024 年期幹事会報告
8. 承認された新入会員

1. 第 148 回 (2024 年度春季) 大会 自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集

社会政策学会第 148 回大会は、2024 年 5 月中旬に、慶應義塾大学・三田キャンパスで対面開催される予定です。今回、12 月上旬の自由論題・テーマ別分科会募集開始時点で開催日が決定していないという異例の事態です。正式な開催日決定は 2024 年 1 月下旬になる見通しです。よって、募集締め切りは 2024 年 2 月 16 日 (金) 17:00 までにしました。正式な日程が決まり次第、HP 等で告知しますので、自由論題・テーマ別分科会希望の方は、準備を行って下下さい。これにともない紙媒体の大会プログラムは編集スケジュールの都合から、自由論題・テーマ別分科会の報告要旨を割愛する予定です。なお報告要旨は HP で配布される PDF 版大会プログラムに記載されます。ご了承下さい。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面形

式での開催が難しいと判断した場合はオンライン大会に変更になる可能性もあります。対面・オンライン開催どちらの可能性もあることを念頭に置いて、報告申請をご検討ください。

春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題およびテーマ別分科会での報告を募集いたします。報告をご希望の方は、下記の要領でご応募下さい。また、報告にあたって事前に、フルペーパーの電子ファイルをご提出いただくことになっております。詳細に関しては、採択決定後に、分科会責任者や報告者の方々にご連絡申し上げます。なお、共通論題の日程は現時点において未定です。決まり次第 HP 等で公表します。

第 144 回大会より《二重投稿に関する注意》が募集要項に追加されました。応募される方は、必ず最後までお目通し下さい。

(1) 自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル (日本語、英語)、所属機関とポジション (日本語、英語)、氏名 (ふりがな、英語)、連絡先 (住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字程度の邦文報告要旨、英文アブストラクト、専門分野別コード (1. 労使関係・労働経済、2. 社会保障・社会福祉、3. 労働史・労働運動史、4. ジェンダー・女性、5 生活・家族、6. その他)、大会若手研究者優秀賞対象者の確認等の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募下さい。

【自由論題報告応募・問い合わせ先】

jasps_spring@yahoo.co.jp

担当委員 村田隆史 (京都府立大学)

松江暁子 (国際医療福祉大学)

また、論文・報告書・他の学会報告等のかたちで既発表の内容については報告できません。応募の段階で判明した場合は不採択といたしますのでご注意ください。自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度まで会費を納入されている方です。当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

(2) テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル(日本語、英語)、分科会設定の趣旨(日本語 400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならぬ理由を記入)と英文アブストラクト、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、E-mail アドレス、各報告の邦文報告要旨(400 字程度)と英文アブストラクト、予定討論者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、大会若手研究者優秀賞対象者の確認等の必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募下さい。なお、テーマ別分科会の企画に応募資格があるのは、会員のみです。オンライン開催となった場合は、テーマ別分科会の座長もしくはコーディネーターに、学会事務局が管理する Zoom のホスト権限を使用し、Zoom ホストを兼ねていただきますので、ご了承ください。

【テーマ別分科会報告応募・問い合わせ先】

bunkakai2015jasps@yahoo.co.jp

担当委員 松原仁美(静岡大学)

田中裕美子(福井県立大学)

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。

(3) 応募は、原則として、学会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上記の E-mail アドレスにお送りいただくことになっています。なお、この方法による提出が難しい方は、春季大会企画委員長までご相談下さい。

(4) 応募用紙の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」の「400 字程度」との字数をお守り下さい。記入の不完全なもの、字数の著しく過剰なものや過少なものは、応募を不採択とさせていただきます。

(5) 自由論題・テーマ別分科会の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」のいずれについても、英文のアブストラクトを提出していただくことになっておりますので、ご注意ください。英文アブストラクトには語数の基準は設けませんが、邦文の「報告要旨」や「分科会設定の趣旨」と同内容となるようにして下さい。また、学会では英文の校閲は行いませんので、英文については、原則としてネイティブ・スピーカーによる校閲(機械翻訳ソフト利用は不可)を受けた上で、誤りや不適切な表現がないものを提出して下さい。英文アブストラクトは、学会の英文ホームページで公開されます。また、学会が発行する英文ニューズレターに掲載されます。

(6) 応募にあたっては、応募時点の所属機関とポジションをご記入下さい。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。大会当日までに所属が変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書き下さることで、変更にご対応下さい。

(7) 応募の締切は、2024 年 2 月 16 日(金) 17:00 迄です。締切は厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。

(8) 応募された方に対しては、遅くとも 2 月 23 日(金)までに応募用紙受領の連絡を行います。この時まで連絡のない場合はなんらかの事故の可能性がありますので、問い合わせ E-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画副委員長宛)にお問い合わせ下さい。

(9) 応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、3 月中旬までにご連絡する予定です。

(10) 第 128 回大会からフルペーパーは電子化されました。その目的は、フルペーパーの準備(大量印刷・送付)を行う報告者とフルペーパー管理(大量保管・移動、締切後や当日の対応、処分等)を行う開催校、双方の負担軽減です。期日までに提出できず、フルペーパーの電子化ができなかった場合には、会場で十分な議論ができないだけでなく、提出期限を守られた報告者との間で不公平が生じます。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、採択された場合は期日までにフルペーパーを提出されるようお願いします。

特にテーマ別分科会の申し込みにあたってコーディネーターの方は、必ずすべての報告者に、フルペーパーの提出の義務と締切日について説明し、了解を得ておいて下さい。

「すべての報告者」には、分科会が招聘する非会員の方、実務家の方も含まれますので、ご注意ください。なお、フルペーパーとは学会報告の内容を学会誌掲載の論文に準じて記述したものであり、既発表の論文・報告書等の転載は認められません。今大会のフルペーパーの提出締切は、4月下旬ないしは5月上旬となりますので、提出日を勘案したうえ応募して下さい。締切日は、決まり次第、HP上でお知らせします。

(11) ご提出いただいたフルペーパーは、会員に事前にパスワードを送付し、そのパスワードを学会ホームページの大会フルペーパーのサイトに入力する方法で(つまり、インターネット上での一般公開という形を避けて)、大会前後の限られた期間にのみ、閲覧と印刷が可能になるようにします。自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方は、締め切り日までに、フルペーパーの電子ファイルを、担当委員(上述の担当委員とは別の委員となります)までお送り下さい。ファイル形式は、原則としてPDFファイルとします。ファイルの送付方法や送付先などの詳細については、採択決定後にご連絡いたします。

(12) 自由論題およびテーマ別分科会で報告されたフルペーパーは、雑誌に掲載されたものと見なされません。このフルペーパーをもとに、いかなる雑誌へ投稿することは自由です。ただし、幹事会と学会誌編集委員会は、自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員が、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、つよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆下さい。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは、会員のみです。

(13) 応募された後で、応募を取り下げること(報告のキャンセル)は、原則としてできませんので、ご注意ください。

(14) 当日のプログラムは企画委員会が決定します。報告時間帯等については、複数の分科会にかかわっているなど登壇が重複するケース以外は、応募者からのご希望には応じられませんので、ご注意ください。

(15) 報告希望の前に、学会費の支払いはお済ませ下さい。学会費に滞納がある場合は報告が許可されませんので、ご注意ください。

(16) 共同研究の成果を報告する場合は、共同研究者の了解を取って下さい。複数で報告する場合は、応募者のあとに共同研究者(会員・非会員は問いません)の名前をあげ、応募者及び応募者とともに当日登壇する人に下線を引いて下さい。なお、当日登壇できるのは会員に限られますので、ご注意ください。

《二重投稿に関する注意》

近年、報告希望者から「既刊のディスカッション・ペーパー(DP)やワーキング・ペーパー(WP)と同じタイトルで報告したいが、二重投稿に該当するか」との問い合わせがしばしばあります。また、第三者から二重投稿の疑義が寄せられることもあります。企画委員会でもチェックいたしますが、万全ではありません。そこで次のようにしたいと思います。

(1) 既刊のWPやDPと同一または類似のタイトルで学会報告を希望する方は、報告申請時に該当WPないしDPを添付ファイルで提出して下さい。同時に、WPやDPからの研究の進展がどの点にあるのか、わかりやすく提示して下さい。形式は特に定めません。

(2) 第三者から二重投稿の疑義が寄せられた場合、企画委員会で検討のうえ、指摘があった旨を当該報告希望者に通知いたします(もちろん、指摘した方の個人名等の情報は伏せます)。報告希望者は企画委員会に対して、二重投稿に該当しない理由をわかりやすく提示して下さい。形式は特に定めません。

春季大会企画委員会副委員長 田中弘美

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪公立大学大学院 生活科学研究科

電話：06-6605-2011(代表)

E-mail：h_tanaka[a]omu.ac.jp ※[a]はアットマーク

文責：伊藤大一

2. 第147回大会臨時総会報告

第147回大会に際して、以下の要領で臨時総会が開かれました。

日時：2023年10月7日(土) 17:10-18:10

会場：立命館大学衣笠キャンパス以学館 4 階 IG402
教室

議題：

- (1) 規程改正について
 - ① 専門部会規程の改正
 - ② 部会活動費補助規程の改正
 - ③ 編集委員会規程、編集規程、投稿細則の改正
- (2) 幹事・会計監査選挙の結果報告
- (3) 大会若手研究者優秀賞選考委員会報告
- (4) 社会政策学会賞選考委員について
- (5) 永年会員となられた会員について
- (6) 次回大会開催校からのご挨拶
- (7) その他 アナウンス：オンライン入会システムの導入について

* プログラム掲載の議題に 5) を追加し、それ以下を降順しました。

臨時総会の議案書は <https://jasps.org/draft-bill.html> に保存されています。規程類改正など重用事項を含みますので、ぜひご参照ください。

- (1) 規程改正案は全て原案通り承認されました。
- (2) 熊沢由美選挙管理委員長より幹事・会計監査選挙の結果が報告されました。
- (3) 大会若手研究者優秀賞選考委員会から審査結果の報告があり、梶原豪人会員（福山平成大学）の「子どもの所有物の欠如といじめ被害の関連に関する実証分析」が選ばれました。禹宗杭代表幹事により賞状の授与が行われ、梶原会員からは受賞の挨拶がありました。
- (4) 社会政策学会賞選考委員として、今井順会員（上智大学）、鎮目真人会員（立命館大学）、宮下さおり会員（名古屋市立大学）にあらたに委嘱したことが報告されました。2 年目の阿部誠会員（大分大学名誉教授）、野口典子会員（中京大学）、馬場康彦委員（明星大学名誉教授）に加え、計 6 名により新たな学会賞選考委員会が発足しました。
- (5) 秋元樹、岩田正美、加来祥男、金澤誠一、上井喜彦、河野善隆、木下武男、木村隆之、伍賀一道、小島弘信、笹島芳雄、佐藤嘉夫、清水教恵、仁田道夫、野原光、野村正實、橋本宏子、平井陽一、福島利夫、堀内隆治、真屋尚生、三富紀敬、森建資、山田修平の各会員が、永年会員となられたと報告されました。

(6) 次回（第 148 回）大会開催校である慶應義塾大学の山田篤裕会員からのメッセージが、代表幹事によって代読されました。三田キャンパスでの開催で、第一候補として 5 月 18・19 日、第二候補として 5 月 11・12 日のふたつの日程が挙がっています。どちらの日程となるかは 2024 年 1 月最終週に確定します。

(7) その他 第 147 回大会の後オンライン入会システムの運用を開始することについて、事務局長よりアナウンスがありました。このシステムは以下から利用できます。
https://jasps.org/outline_guidance.html。

文責：熊沢 透

3. 選挙管理委員会報告

38 期（2024-2026 年期）役員選挙の結果について、以下のとおり報告します。

選挙は、2023 年 9 月 7 日（木）に公示をおこない、有権者によるオンライン投票をおこないました。投票の締め切りは 2023 年 9 月 28 日（木）17:00 とし、翌 9 月 29 日（金）に本学会の事務センターがある(株)ガリレオにて開票作業をおこないました。

開票の結果、以下のようにより、当選・次点を決定しました。

開票結果（選出幹事 20 名、会計監査 1 名）

■北海道・東北ブロック（定員 2 名）

当選	熊沢 透	46 票
	松本伊智朗	14 票
次点	渡部あさみ	10 票

■関東・甲信越ブロック（定員 9 名）

当選	藤原千沙	30 票
	百瀬 優	23 票
	菅沼 隆	21 票
	阿部 彩	20 票
	禿あや美	16 票
	金井 郁	15 票
	鬼丸朋子	14 票
	金 成垣	13 票
	榎 一江	12 票
次点	米澤 旦	11 票

■東海ブロック（定員 2 名）

当選	水野有香	20 票
----	------	------

吉村臨兵 17票
次点 山田壮志郎 10票

■関西・北陸ブロック(定員5名)

当選 垣田裕介 24票
森 詩恵 17票
櫻井純理 14票
杉田菜穂 13票
居神 浩 12票
次点 金子良事 8票

■中国・四国・九州ブロック(定員2名)

当選 田中聡子 13票
志賀信夫 12票
次点 角 能 11票

■会計監査(1名)

当選 石井まこと 17票
次点 禹 宗杭 11票

なお、今回の選挙は、有権者数1,122人、投票者数167人、投票率14.9%でした。

以上、選挙管理委員会：熊沢由美(委員長)、永田瞬、五十畑浩平、瀬野陸見、三好禎之。

4. 第147回(2023年度秋季)大会
若手研究者優秀賞選考報告

(1) 選考の経緯

・第1回選考委員会(9月19日：メール審議)

選考委員は、伊藤大一、小尾晴美、田中弘美、山田壮志郎の4名。選考対象者リストを作成し、今後の選考日程を決定した。また、選考委員長に山田を互選した。

・第2回選考委員会(9月28日：メール審議)

締め切りまでに提出された12本のペーパーを対象に一次選考を行い、うち6本を二次選考の対象とすることとした。

・第3回選考委員会(9月29日：オンライン会議)

二次選考を行い、優秀賞授与対象者を決定した。その後、本人に対して若手研究者に該当することの確認を行った。

・第4回選考委員会(10月1日：メール審議)

選考報告書を決定した。

(2) 選考の結果

受賞作：梶原豪人「子どもの所有物の欠如といじめ被害の関連に関する実証分析」

(3) 選考の理由

本研究は、貧困に起因する子どもの所有物の欠如がいじめ被害の要因となりうるか、またどのような所有物が欠如している場合にいじめ被害に逢いやすいのかを明らかにすることを目的としたものである。関東地方の4市において小学校5年生と中学2年生を対象に実施された「子どもの貧困実態調査」のデータを統合し、いじめられた経験があったとの回答を被説明変数とし、所有物の欠如を説明変数とした解析を行っている。その際、「たいていの友だちがもっているおもちゃ」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「友だちが着ているのと同じような服」の3項目で構成される「仲間に溶け込む(Fitting in)」ための所有物の所有状況を示すF得点、「自分だけの本」「子ども部屋」「自分専用の勉強机」などで構成される「社会経済的地位(SES)を代替する」所有物の所有状況を示すS得点に分け、さらに所属する学校レベルでのF得点平均値も含めて分析に用いている。分析の結果、両学年ともにF得点はいじめ被害に統計的に有意に関連するがS得点は関連しないこと、学校レベルでのF得点の平均値はいじめ被害の逢いやすさに関連しないことを明らかにしている。この結果から、いじめ被害は貧困に起因する所有物の欠如に関連しており、とくにSESに代替される所有物よりも「仲間に溶け込む」ために必要な所有物が重要であり、子どもの貧困対策といじめ防止対策を架橋する政策が重要であることを指摘している。

審査委員からは、貧困家庭の子どもは所有物の欠如により学校内で仲間に溶け込むことができずいじめ被害に逢いやすいというテス・リッジの知見を実証的に発展させようとする意欲的な研究であること、先行研究の丁寧な検討に基づいて理論枠組みと仮説が設定された手堅い研究であること、SESを代替する所有物と「仲間に溶け込む」所有物を分けて分析することで所有物といじめ被害との関連を俯瞰的に分析できていることなどが高く評価され、子どもの貧困研究に貴重な知見を提供する優れた研究成果であるとの意見で一致した。

一方、被説明変数であるいじめ被害の有無が本人の主観的な回答に依拠しているため実態との齟齬の可能性が懸念されること、政策的な示唆を深めるためにはいじめ側の条件のような集団のあり方や学校によるいじめ防止の取り組みなども考慮する必要があることなどの

課題も指摘された。論文化の過程や今後の研究活動でのさらなる発展を期待したい。

文責：山田壮志郎

5. 第146回大会(2023年度春季)大会 報告と会計報告

2021年4月に石井まこと代表幹事から菅沼に立教大学での大会開催の依頼を受けた。学内の会員と相談した結果、2023年春季大会を引き受けることにした。

■実行委員会開催状況

2021年8月1日：第1回実行委員会

2022年5月13日：第2回実行委員会

開催日決定、石井代表幹事陪席

2022年12月15日：第3回実行委員会

山田壮志郎日本福祉大学実行委員長陪席

2023年3月2日：第4回実行委員会

詳細役割分担決定

2023年4月7日：第5回実行委員会

当日役割分担決定

■実行委員

実行委員長 菅沼 隆

事務局長(統括責任者・会計) 首藤若菜

実行委員 湯澤直美、神林陽治、木下武徳、畠中亨、濱田江里子、朴峻喜、跡部千慧、前田一步、加藤壮一郎、青木尚人、原田晃樹(非会員)

■開催日と教室手配

2021年8月にオンラインで第1回の実行委員会を開催した。開催形態はオンラインか対面か、池袋と新座のどちらのキャンパスで開催するか、事務局長の選出方法、必要な役割、開催日の決定条件、今後のスケジュールなどについて検討した。Covid-19の終息が見通せない時期であったが、対面開催を前提に準備することとした。2つのキャンパスの当該時期の教室の利用見通しについて、10月に大学事務に問い合わせをおこなった。これがその後の大学事務の協力を得ることにつながった。

開催日を前年の秋季大会(2022年10月)に会員に告知する必要があった。このため5月の第2回実行委員会で開催日を決定した。教室使用は、学内行事が優先されるので、実際に使用できる教室とキャンパスが分

かるのは2023年2月末であった。大学事務に過去年度の学内行事の開催日を問い合わせ、5月27・28日が候補として浮上した。だが、この日は既に日本社会福祉学会が春季大会を開催することが決まっていたことが明らかになった。このため6月3・4日に開催することに決定した。この段階で池袋と新座のどちらのキャンパスで開催するかは未定であった。

12月の第3回実行委員会のときもキャンパス未定で準備を進めた。1月30日に大学事務局から次年度の学内行事と教室使用状況が決まったので、大会の教室使用の申込受付を受け付ける連絡があった。2月7日に大学事務から、池袋キャンパスでは6月3日午前は使用できる教室がなく、自由論題、部会専門委員会などの教室確保も難しい、また、同日に複数の学会開催申し込みがあるため教室が極めてタイトであり、特に500人規模の教室の見込みが立たない、という連絡を受けた。このため新座キャンパス開催のプランBも具体的かつ詳細に検討した。2月18日の幹事会にこの状況を伝えたところ、近隣の大学のホールの使用など様々な代替案を出していただき、プランCとして可能性を追求した。結果として、首藤事務局長の粘り強い交渉により、2月27日、池袋キャンパスにてほぼ要望通りの数の教室を確保できることになった。昼休みの部会・各種委員会会議用の教室も2日間同じ教室を確保できた。開催日と教室が決まったため、幹事会の春季大会実行委員会はプログラムの作成に着手した。

■プログラム作成・印刷・発送

プログラムの原稿作成は春季大会実行委員会幹事が担当した。3月10日伊藤大一幹事から共通論題と分科会の時間割り当てが記入された原稿を受け取り、教室番号、委員会・部会教室番号、実行委員長挨拶文、事務局からの院内文を入れて完成稿を作成する作業を行った。だが、懇親会会場の決定が遅れたため、完成するには時間を要した。懇親会会場が決まったのは4月上旬であった。この後、出版社広告を入れ、版下作成作業に入った。だが、その後、版下作成作業に予想以上に時間を要してしまった。このため版下が完成したのは4月23日となってしまった。このためプログラムの発送は予定より大幅に遅れ、連休明けの5月10日になってしまった。一部の会員から「到着が遅い」という苦情を受けた。また、発送が遅れたことで、参加登録が伸び

悩み、参加を見送った会員が一定数発生したと思われる。

冊子プログラムの発送が大幅に遅延することが明らかになったため、4月27日に森周子広報委員長にpdfのプログラムを学会ホームページにアップしていただいた。

印刷手配は実行委員の跡部さんの尽力で3社の見積もりを取り、社会福祉法人東京コロニーコロニー印刷に依頼した。冊子のプログラムはコロニー印刷から(株)ガリレオに直接納品され、ガリレオにて封入・発送がなされた。印刷部数は1,200とした。

■対面かオンラインか

2021年8月の第1回実行委員会では、感染の終息を見通すことはできなかったが、対面とオンラインの両方を追求した。対面開催の前例はCovid-19パンデミック前の2019年秋の法政大学であったため、法政大学の校友会に依頼し、開催事務局資料を提供していただいた。これは大変役に立った。

2022年4月第2回の実行委員会で、対面で実施することを前提に準備し、共通論題と教育セッションをハイブリッドにすることを検討することになった。2022年10月の日本福祉大学でコロナ後初めての対面開催が実施されたことを受けて、立教大会は対面実施と懇親会開催をすることを前提に準備することにした。ただし、感染の波が来る可能性も考慮して、オンラインの準備も進めた。

■ガリレオとの連絡調整

学会事務支援会社がガリレオに変更され、大会支援業務についても大きな変更が予想された。2022年5月第3回実行委員会にガリレオと交渉してきた前代表幹事の石井まこと会員に陪席していただいた。大会参加の受付、参加者名簿の作成、参加費の収受、大会プログラムの発送などの業務をガリレオが代行できる可能性があることが分かった。2022年10月の日本福祉大学大会はガリレオの支援を受けた初めて大会であったため、受付や会場設営の写真を取り、準備の参考にした。12月15日に日本福祉大学の山田壮志郎実行委員長を招き、オンラインで引継ぎを行った。報告者が欠席した場合のオンライン対応やガリレオの学会業務委託費の内容、準備のスケジュールについて詳細に説明していただいた。特に、コストを削減可能な事項(プログラム、ガリレオ受付)、書店との連絡調整、学生要員の人数算定と謝金額について具体的に説明していただいたので、費用の節

減に大いに役に立った。

12月23日にガリレオとオンラインで打ち合わせをした。日福大会の契約内容を参考に、どのような支援を受けられるのか、参加申込受付と名簿の作成管理、金銭・受付管理、学生要員の業務、名札、領収書の印刷など、内容を詳細に確認した。また、経費削減と実行員会の負担軽減のために、参加費入金に際し、クレジット決済を使用することが望ましいと判断した。その旨を幹事会メーリングリストで伝えた。2023年1月20日にガリレオから大会支援の見積もりが届き、銀行振込も併用可能ということで、クレジット決済で行うことに決定した。

当初は、実行委員会にガリレオとの連絡担当を1名置いていたが、機動性に欠ける点があったため、5月になってからであるが、メーリングリストで連絡事項を共有して、実行委員の誰もがガリレオと連絡をとれる仕組みにした。また、ガリレオから大会受付用ホームページの管理者用パスワードを受け取ることができたことは、参加者氏名、参加者数、弁当・懇親会申込者数などを逐次正確に把握することができ、非常に便利であった。

大会当日のガリレオから派遣される会場担当者は1名にした。日福大では2名の派遣であったが、東京開催で宿泊の必要もなく、クレジット決済による金銭管理業務負担も軽減されることから1名にした。ガリレオの方は大変有能で、細かい要望にも迅速かつ的確に対応していただいた。特に、大会2日目に全分科会をハイブリッド開催にした際に、的確な助言をしていただいた。

■懇親会会場手配について

パンデミックの影響で懇親会開催の見通しは不透明であった。歴史的建造物である第1食堂が第一の候補であった。2021年10月の段階では、感染の終息が不明であり、使用できる見込みがなかった。2022年10月の段階では、大学の基準として「30名までのパーティーのみ可」と規制されており、さしあたり学内の小パーティールーム「藤だな」を予約した。

2023年2月末の段階で、大規模パーティー禁止の方針が9月まで継続することになり、また、感染防止のパーティーが残る第1食堂は使用禁止とされた。実行委員で手分けをして、近隣のホテル、結婚式場、パーティールーム、宴会場を探したが、適当な会場を探ることができなかった。結局、学内で人数を分散して2つの

会場で開催することにした。一つはハラル料理の学生食堂「東京ハラル」であり、もう一つが「藤だな」であった。参加者の割り振りなどいくつか課題があったが、2つの会場をプログラムに記載して、参加受付をした。2つの会場をオンラインで結ぶことにした。しかし、参加申込者は105名となり、「東京ハラル」の会場一つに収まることになったため、「藤だな」をキャンセルした。ハラルの会場はアルコールが出せないで、アルコールを購入して、持ち込んだ。

新幹線が止まっていたため、懇親会から参加された会員もいた。コロナ明けの初めての懇親会は大いに盛り上がり、参加者から感謝の言葉をいただいた。会場の片づけは、参加者の皆さんに手伝っていただいた。

■台風による新幹線運行休止と全セッションオンライン化

大会初日、朝6時のニュースで、台風により東海道新幹線が運航休止になったことを知った。このため実行委員会メーリングリストで情報を共有し、オンライン配信をする方向で実行委員が作業に取り掛かった。伊藤大一春季企画委員長からもオンライン配信の依頼が来た。

大学に着くと、実行委員が持つ大学教員用のZoomアカウントを集め、分科会会場ごとにZoom設定を行った。8時41分、学会メーリングリストで午前の分科会のZoomURLを配信した。新幹線休止で大会2日目も会場に来ることができない会員が発生することが予想されたため、大会のすべてのセッションでZoomを使用したハイブリッド開催とすることにした。大会2日目については、ガリレオのオンライン登録システムの情報を利用して、参加費を納入した会員にのみアクセスできる設定にした。

■その他 学生アルバイト、懇親会若手招待

第5回実行委員会で学生アルバイト要員の人数を算定した。土日に学生アルバイトを確保することは容易ではなく、すべての実行委員が分担して学生を集めてくれた。学生用のマニュアルを作成し、オンラインで事前に説明会を2回開催した。

今大会から、幹事会の主導で、若手会員報告者を懇親会に無料招待する制度が導入された。招待者の名前と人数を事前に入手し、懇親会参加名簿に記載した。幹事会との密接な連携が求められた。

■振り返って

パンデミック後初めての、懇親会開催も含めたフルセ

ットの、対面による大会を開催することができた。パンデミックの影響が残り、懇親会会場の確保に苦勞した。新幹線運行休止という予想外の事態に迅速に対応できたのは、実行委員の献身的な努力の賜物であった。準備のすべての過程で、幹事会の人的・精神的な支援とガリレオ的確な対応が大いに助けられた。参加された会員からねぎらいの言葉を多くいただいた。大会はすべての会員の協力によって実施されていることを改めて認識した。すべての会員に感謝申し上げる。

文責：菅沼 隆

会計報告

収入	金額(円)
学会準備金	1,500,000
大学からの助成金	127,500
書店の広告・出展料	110,000
お弁当代	103,000
懇親会費(5,000円×104人)	520,000
瓶返却代金	1,200
合計	2,361,700

支出		金額(円)
プログラム	プログラム印刷	198,000
休憩室	飲料代	10,765
	紙コップ代	430
備品・その他	紙テープ	616
	名札セット	19,125
	両替手数料	770
印刷	会場関係印刷費	23,705
委託費	ガリレオ委託費	671,797
大学構内清掃費・警備員費		113,934
学生アルバイト	アルバイト代金	231,000
	弁当代金	25,000
郵送費	学会備品郵送費	1,570
振込手数料		440
お弁当(申込者分)		103,000
懇親会	食事・食堂利用料	407,000
	飲料代金	89,115
	栓抜き代	1,100
学会本部へ返金		464,333
合計		2,361,700
収入との差額		0

大会参加者	人数(人)
会員(一般)	253
会員(院生)	33
名誉会員	3
非会員(一般)	15
非会員(院生)	4
合計	308

6. 社会政策学会賞候補作の推薦のお願い

今年度の社会政策学会賞選考委員会が、11月10日(金)にオンライン会議を通して発足いたしました。選考委員会では、2024年1月より第30回社会政策学会賞の選考を開始いたします。

つきましては、学会員のみなさまに候補作の推薦をお願いいたします。自薦・他薦は問いません。外国語著書も選考対象に含みます。候補作の条件は、表彰規定第3条および第4条にもとづき、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2023年1月1日から同年12月末日までの間に公刊された単行書です。ただし、教科書、一般向けの概説書等は、原則として除きます。

学会賞選考委員会では、書籍データベース等を活用して、会員のみなさまの日本語の著書リストを作成して選考の際に利用していますが、会員の著書すべてを網羅できるかどうか、不確実です。また、外国語の著書については、原則として推薦していただいたもののみを選考の対象としています。そこで、会員のみなさまが単行書を2023年中に刊行された場合は、ぜひとも、候補作の「自薦」のかたちでお知らせいただくようお願いいたします。また、会員が出版された書籍について学会賞にふさわしいとお考えの作品があれば、その書籍の推薦をお願いいたします。

これらの自薦・他薦の情報は、次の通りメールでお寄せください。なお、他薦の場合、「本学会に3年以上継続して在籍している会員」であるかどうかを確認していただく必要はありません。こちらで確認いたします。

締切：2024年1月12日(金) 必着

メールアドレス：mabe@oita-u.ac.jp

メールには以下の事項を明記して下さい。

(1) メールの件名の冒頭に【2023年学会賞候補出版情報】と記入し、著者の会員のお名前を件名のなかに書き込んでください。

件名 【2023年学会賞候補出版情報】○○○○(著者の会員名)

(2) 候補作の著者名、書名、出版日、出版社

(3) 会員の著作を推薦される方は、推薦者のお名前、ご所属、連絡先(メールアドレス)も記載してください。できれば、推薦理由もお書きください(任意)。

メール受信後数日以内に受領確認の返信をお送りします。1週間経っても返信がない場合は、念のため、再度のご連絡をお願いいたします。

これらの著作リストと推薦作品は秋季大会の書評分科会で取りあげる図書の選定にも活用させていただきます。

学会賞の候補作品について、自薦・他薦にかかわらず、会員のみなさまからの積極的な情報の提供をよろしくお願い申し上げます。

社会政策学会賞選考委員長：阿部 誠

7. 2022-2024 年 期幹事会報告

第9回幹事会

2023年10月6日 13:00 立命館大学学術館

出席：禹宗杭、阿部彩、伊藤大一、岩永理恵、垣田裕介、金井郁、禿あや美、金成垣、白瀬由美香、上村泰裕、菅沼隆、所道彦、引馬知子、藤原千沙、松本伊智朗、水野有香、百瀬優、森詩恵、山村りつ、熊沢透
欠席：石井まこと、金子良事、首藤若菜、柘田大知彦、田中聡子、小尾晴美、森周子、田中弘美

■議題

- (1) 選挙管理委員会報告
- (2) 新入会員の承認
- (3) 臨時総会議案書の確定
- (4) 各種委員会関係報告・審議
- (5) 次回以降の開催校について
- (6) 次回幹事会

参加者の参集状況に応じて、議題の取り扱い順は便宜的なものとした。

(1) 選挙管理委員会報告

熊沢由美選挙管理委員長から幹事・監査選挙の結果報告と今後の選挙運営における課題の整理、提言があった(詳しくは、本ニューズレターの別項を参照)。

(2) 新入会員の承認

10名の新入会員が承認された。

(3) 臨時総会議案書の確定

語句修正を経て、内容が確定された(総会報告の項における議案書へのリンクを参照)。

(4) 各種委員会関係報告・審議

①国際交流委員会

国際学会報告助成の実施状況と今後の検討課題について報告があった。年度内の助成申請数によって一件あたりの助成額が大きく影響を受ける可能性があることについて、公正性で合理的な運用方法を考えることとした。

②若手研究者支援担当

若手フォーラム開催についてと、第147大会における若手への助成(旅費と懇親会招待)の状況について、報告があった。

③春季大会企画委員会

共通論題の準備状況について報告があった。

④大会調整担当

幹事アンケート、調査の結果について整理された。それをふまえて「年2回の大会を維持」「書評分科会のあり方は現状維持」という方針が確認された。ふたつの「大会企画委員会」の統一案について、慎重な方針が共有された。大会の一部ハイブリッド化など、懸案事項について検討結果を文書に取りまとめることとなった。

⑤秋季大会企画委員会

第147回大会開催に関わるマイナートラブル、対応が検討された。

⑥地方部会活性化担当

臨時総会議案書の規程改正案について、意見交換ののち、議案書に反映された(総会報告の項における議案書へのリンクを参照)。

⑦専門部会活性化担当

臨時総会議案書の規程改正案について、意見交換の

のち、議案書に反映された(総会報告の項における議案書へのリンクを参照)。

⑧編集委員会

臨時総会議案書の規程改正案について、意見交換ののち、議案書に反映された(総会報告の項における議案書へのリンクを参照)。その他の懸案事項について審議を継続することとした。

・小特集の扱いについては引き続き検討することとした。

・投稿の締切時期をずらす(現行はお盆休みや年度末に重なっている)こととした。

・プレプリントを活用しながら、「3号」を、区切りは「4号」とし、冊子体は2号ずつ合冊にするなどの検討・提案は編集委員会で行えることを確認した。

・査読専門委員の制度を廃止することとした。

・企画委員会が共通論題、(残すのであれば)分科会=小特集、書評について原稿提出に責任をもつ。

・編集委員会独自企画の書評はやめることとした(前回幹事会での確認)。

(5) 次回以降の開催校について

2024年春 慶應義塾大学

2024年秋 大分大学

2025年春 東京都立大学

2025年秋 関西学院大学

まで、決まった。

(6) 次回の幹事会は2024年2月を予定。

文責：熊沢 透

8. 承認された新入会員

2023年10月6日幹事会承認(10名)

白石 杏	お茶の水女子大大学院人間文化創生科学研究科ジェンダー学際研究・院生	労使関係・労働経済/社会福祉・社会保障/ジェンダー・女性/生活・家族/その他
小川和孝	東北大学大学院文学研究科・准教授	労使関係・労働経済/社会保障・社会福祉
土岐智賀子	開志専門職大学・事業創造学部・講師	社会保障・社会福祉/生活・家族
篠原明穂	全国生命保険労働組合連合会・書記、法政大学大学院政治学研究科・院生	ジェンダー・女性
入部 寛	日本社会事業大学社会福祉学部・教授	社会保障・社会福祉/生活・家族
内山由紀子	一般社団法人化学情報協会	労使関係・労働経済/社会保障・社会福祉/労働史・労働運動史/ジェンダー・女性/生活・家族/その他
齋藤崇治	名古屋商科大学経済学部・専任講師	社会保障・社会福祉
イ・ヘリン LEE HYELYN	立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻・院生	社会保障・社会福祉
瀬戸健太郎	立教大学社会学部社会学科・助教	労使関係・労働経済/労働史・労働運動史
王 静	龍谷大学社会学研究科・院生	労使関係・労働経済/社会保障・社会福祉/労働史・労働運動史/ジェンダー・女性/生活・家族